

八王子西南部地域における道の駅設置による地域活性化の提案

拓殖大学 国際学部 国際学科 徳永研究室

藺古田瑠依, 井ノ口達也, 榎本彩歩, 佐藤すみれ, 佐藤実緒

指導教員 徳永達己

2027年のリニア開通の影響により、八王子市は更なる発展を遂げることになるだろう。しかし、八王子西南部地域では多くの問題を抱えており、早急な対応が求められている。今回の市政提案は、八王子市の西南部地域における交通ネットワーク機能の改善と地域の活性化を図ることを目的とし、新たに道の駅の設置を提案するものである。

地域の衰退、高齢者住宅、既存の集客力のポテンシャル、道の駅の役割

1. 市政提案の背景

八王子市の第2次都市計画マスタープラン（MP）のビジョン1に示す通り、八王子市は立地的に比較優位が高く、交通利便性の強みがある。山梨、神奈川と北関東を結ぶ中核的な立地的役割を担っており、西東京地区における中核都市としての役割を期待されている。しかし、交通結節点である八王子南バイパス周辺では交通渋滞が発生しており、市民生活や物流に支障が生じている。

また、市内には大学・短大・高専数が25校、学生数は約11万人を有する学園都市であるが、高齢化率も高くなっている。平成23年より人口は横ばいペースであるが、将来的には人口が減少する恐れも指摘されており、特に市内西南部地域（山田、西八王子、高尾等）でその傾向が著しい。

2. 八王子西南部地域の現状と開発課題

① 館ヶ丘団地の高齢化と空き部屋増加

八王子西南部地域には、私達の拓殖大学を含むいくつかの大学を有する一方で、高齢化の進む施設、交通の不便な場所がある。

例えば館ヶ丘団地である。現在、この団地は居住者の高齢化（高齢化率約55%¹）・要介護者の増加、若者・子育て層の減少、人口減少、空き家の増加、空き施設の増加に伴う生活機能の低下、バスの運行本数が少ないことなど²、様々な問題を抱えている。

② 高速道路周辺の交通渋滞

拓殖大学八王子キャンパスの近くには圏央道八王子ジャンクションがあり、一般道から乗り入れる車の利用客が多い。また、大型車も多く利用していることで渋滞が起こりやすい。さらにこの高速道路の

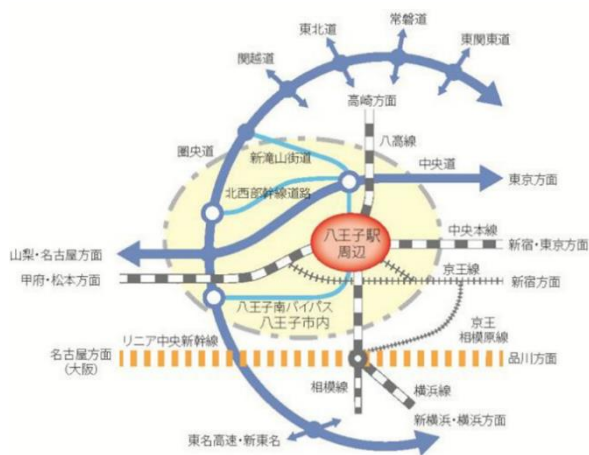


図-1 にぎわい創出・地域経済活性化

出典：第2次八王子市都市計画マスタープラン

(MP) 都市づくりビジョン八王子より

¹ 住民ヒアリングによる（2018年10月6日）

² <https://www.city.hachioji.tokyo.jp/>

周辺に運転手が休憩する場所、駐車場がなく不便である。しかし、2027年に八王子市から約10km離れた橋本駅にリニアが開通する予定であり、名古屋まで60分、品川まで10分で移動でき、場所の利便性は高く、八王子市に訪れる観光客も更に増加することが予想される。

③ 高尾山観光の少ない経済効果

高尾山は、年間登山客が260万人にも及び世界で最も登山客の多い山と知られている。

しかし、観光客は下山しても魅力的な飲食店、駐車場が広い商業施設も少なく、とりわけ宿泊施設がほとんどないことからせっかく高尾を訪れる観光客も地元で採れる野菜などでおもてなしを受けることもなく、都心や他の地域へ流れてしまっている。

3. 道の駅を用いた地域活性化

以上に述べた西南部地域の諸問題を解決するために、新しい道の駅の建設を提案する。

道の駅公式ホームページ³によると、「道の駅」とは安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設とされている。

また、駐車場やトイレなどの休憩機能、道路情報・観光情報・緊急医療情報の情報提供機能、文化教養施設・観光レクリエーション施設地域連携機能の3つの機能を備えていることが条件とされている。

4. 八王子市「道の駅八王子滝山」の現状

八王子市にある「道の駅八王子滝山」は、東京で唯一の道の駅である。年間売上高は7億円を上回っており、国内でも上位の売上げを誇っている。この道の駅が中央自動車道八王子インターチェンジ出口付近に位置していることも、観光客を呼び寄せる理由のひとつとなっている。

滝山は、地元野菜の直売所や飲食店の他にも、数多くのイベントが開催され、地域に貢献している。しかし、多くの利用客に対し、駐車場二つの収容台

数を合わせても107台と少なく、道の駅周辺ではしばしば交通渋滞が起こっている。

5. 新しい道の駅の設置場所について

新たな道の駅の建設予定地は、拓殖大学および館ヶ丘団地にある現在使用されていない敷地を利用することが考えられ、道の駅を拠点として新たなバスルートを開設していくことも視野に入れたい。

6. 具体的な今後の計画

本課題の解決には、西南部地域に道の駅設置を目指し、①地域の住民、②館ヶ丘団地の住民、および③地域内の大学でまず組織化を図り、整備に向けた計画を策定していくことが望ましいと考える。住民のメンバーとしては、JA八王子および現在拓殖大学農園の技術支援をしている地元農家の方々をはじめとする地域住民を想定している。

さらには、バスや鉄道等の交通事業者とも連携することにより、例えば館ヶ丘団地・拓殖大学と横浜線を結ぶなど、道の駅を活かした新バスルートの開設なども可能になる。

加えて、実現に向けては、道の駅推進組織により、社会実験という手段の活用も可能かと思われる。

また、西南部地域には宿泊施設が少ないため、空き家を利用した宿泊施設の建設や既存の施設の再整備を進める。また、災害発生時の緊急避難場所としての役割も持たせることで防災という面でも機能することができる。

7. まとめ

交通渋滞を緩和するには、道路を拡張することが有効な手段であるが、費用や時間がかかるため、既存の土地や施設を利用して道の駅を整備することは、問題解決の手段として大変効果的である。また、道の駅を作ることにより、地域住民のコミュニティ発展の場や学生と交流する場を提供し、地域の活力を取り戻すことにつながると考えられる。

³ <https://www.michi-no-eki.jp/>